石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ
https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

技能実習生を招き「多文化共生」学ぶ

「異文化コミュニケーション論」特別授業

ウエンさん（奥右から2人目）とエルリナさん（同3人目）の話を高校生と大学生が熱心に聴講した

人間学部の目黒志帆美准教授が担当する「異文化コミュニケーション論」は、「人の移動」に注目し、移民・難民をめぐる諸問題を取り上げながら多文化共生のありかたを学ぶ授業だ。

12月7日は石巻市の協力のもと、「技能実習生と考える石巻」と題した特別授業を実施。技能実習生として市内で水産加工業に従事するダオ・ティ・ウエンさん（ベトナム出身）とニ・マデ・エルリナ・クスマ・ワルダニさん（インドネシア出身）を招き、話を聞いた。

はじめに石巻市復興企画部地域振興課の岡田桂奈さんが、石巻市における外国人の受け入れ状況について、続いてみやぎオーバーシー協同組合専務理事の國分貴之さんが、技能実習生の受け入れ状況や多文化共生の取り組みなどについて説明した。

その後、ウエンさんとエルリナさんを交えて座談会形式で、技能実習生と石巻の未来について率直な意見を交わした。

授業には、同科目を履修する学部生のほか、宮城県松島高校の生徒なども参加し、地域の多文化共生について学んだ。尾内梨穂さん（人間1・鹿児島県屋久島おおぞら高）は「報道からは分からない技能実習生のリアルな声を聞くことができた。多文化共生を実現するためには多文化に触れることが必要と感じた。石巻には技能実習生や外国人の方と交流できる場があるので、今後参加してみたい」と感想を述べた。

留学生が課外活動

平泉訪れ日本文化学ぶ

国際交流センター主催の留学生による課外活動が12月3日に行われた。

この活動は毎年実施しており、今年は10月に来日した中国・東北電力大学からの交換留学生5人と学部留学生4人に加えて、石巻での留学生活を手助けしながら共に学ぶ「交換留学生ピアサポーター」の日本人学生8人が参加。日本の歴史や文化に触れることを目的に、世界遺産である岩手県平泉町の中尊寺と毛越寺を訪れた。

当日は、中尊寺で讃衡蔵や金色堂、毛越寺で宝物館や浄土庭園を見学。金色堂の豪華な装飾や毛越寺の「大泉が池」に映る木々の美しさに感嘆の声があがった。また、建物の由来や留学生が引いたおみくじの意味について、ピアサポーターが説明する場面もあり、異文化理解と親睦を深める貴重な時間となったようだ。

参加した留学生からは「約900年前から続く平泉町の歴史や文化に触れ、改めて日本の歴史に関心を持った」「文化財周辺の景観に合わせて配慮された看板の色遣いが興味深かった」などの感想が寄せられた。

世界遺産・中尊寺金色堂の前で記念撮影

緊急フードパントリー

在学生に食料支援

多くの学生が支援物資を受け取った＝11月4日

コロナ禍でアルバイトができず、食費に困っている在学生への支援を目的にした「緊急フードパントリー　コロナに負けるな！食料支援」が11月4、8日に本学構内で行われた。生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合コープフードバンク（宮城県富谷市）の協力を受け、カップ麺とスティックコーヒーを無料で提供した。

4日は、1人につきカップ麺12個とスティックコーヒー4袋を約400人に配布。学生は好みの商品を選び、持ち帰った。

中津山悠真さん（人間2・岩手県千厩高）は、「1人暮らしをしているので、食費の足しになり大変助かる。またこのような機会を設けていただけたらありがたい」と話した。

今後の実施については in Campus で。

視線計測で若者の観光対象を調査

IS奨学研究で経営・三橋助教

計測実験を行う学生。右は装着した機材

経営学部情報マネジメント学科の三橋勇太助教が主導する、石巻市の観光地・観光施設を対象とした視線計測実験が進行中だ。被験者として本学学生も協力している。

実験では、GPSとメガネ型のデバイスを装着した学生が、いしのまき元気いちばから日和山公園までの約1キロを歩き、その間の視線の動きなどを計測。ルート上の何を見て、何に興味を示したのかを解析し可視化することで、石巻市の観光活性化に役立てる。

三橋助教は今年度、石巻信用金庫から助成金を得て地域の産業・経済の振興に寄与する研究を行う「IS奨学研究員」に選ばれている。今回の実験は「石巻市の観光モデルコースを対象とした視線計測による実証的調査」と題した研究の一環。

三橋助教は、「視線計測を通じて、観光地に対する若者の潜在的嗜好を把握する挑戦的な研究。今回得られた結果を観光地側と共有することで、観光ルートの整備や商業施設における展示物・土産物の効果的な配置の一助となることが期待される」と話している。

経営・庄子&丸岡ゼミ　東洋学園大と合同ゼミ

女川町の活性化策議論

グループワークの成果を発表する学生たち

経営学部経営学科の庄子真岐ゼミと丸岡泰ゼミが東洋学園大学（東京都）グローバル・コミュニケーション学部の「都市観光戦略ゼミ」（泰松範行教授）と連携し、「ゼミ交流会in女川」を開いた。

交流会は学生視点で宮城県女川町の活性化策を考えることを目的に企画され、11月12日に3ゼミ合同で実施された。当日は庄子ゼミ10人、丸岡ゼミ8人、泰松ゼミ6人が参加し、講演、視察、グループワークを通じて、女川町の現在と未来について考えた。

学生たちは実際に女川の街を歩き、震災遺構として保存されている旧女川交番、きれいに整備された街並みや港などを視察。着実に進む復興の様子を体感した。

同町で震災復興支援や地域活性化に取り組むNPO法人アスヘノキボウの松平恭典さん（令3経営）から具体的な活動内容について説明を聞いた後、学生たちは「女川町の活動人口を増やすためには」というテーマでグループワークとディスカッションに取り組んだ。本学学生たちが持つ被災地の「中」からの視点と、泰松ゼミ生の「外」からの視点、それぞれの立場から意見を交換することで、新たな考え方を得る好機となったようだ。

庄子ゼミ3年次の阿部祐弥さん（宮城県石巻好文館高）さんは、「女川に対する見方や捉え方について、都市部に暮らす泰松ゼミ生と地元の私たちでは異なる部分も多く、今回の交流会を通じて視野を広げることができた」と成果を語った。

理工・辻准教授　動植物の魅力解説

いしのまき子ども未来スクール

辻准教授の講義

石巻専修大学開放センターとポプラ社（東京都）が共催する「いしのまき子ども未来スクール」の第2弾が11月27日に本学で開かれ、石巻地域の小学4～6年生16人が参加した。

今回は理工学部の辻大和准教授が講師を務め、「石巻の動物博士になろう」をテーマに授業。辻准教授は自身の研究・経験を踏まえ、金華山に暮らすシカやサルについて説明したほか、写真を見せながら世界中の変わった動植物などを紹介した。

その後、教室と実験室に移動し、演習林で撮影した動物の画像上映や動物の糞を分析するワークショップなどを実施。子どもたちは目を輝かせながら取り組むとともに、質疑の時間には多くの質問を寄せていた。

当日は、人間学部人間教育学科の学生が司会進行、受け付けなどを担い、理工学部生物科学科・辻研究室の学生がワークショップを担当し、運営に協力した。

ワークショップを行う辻研究室の学生